令和５年度　江戸川区立小岩第二小学校　学校関係者評価　最終評価報告書

学校教育目標	上二の子どもはやり通す ○やり通す心・・・よく学ぶ子（今年度重点）、思いやりのある子、よく働く子 ○やり通す体・・・よく遊ぶ子、よく運動する子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○安全・安心な学校、保護者・地域から信頼される学校 ○明るく元気に学び合える児童 ○教職員が協力し合い、互いに磨き合う教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞「確かな学力の向上」では、既習事項の確実な定着を行うことによって意識的な取組が少しずつ成果へと結びつき学力向上がみられる。「地域資源を活かした教育」では、「心のふるさとづくり」として総合的な学習の時間及び生活科と関連付けて、教育課題実践推進校として研究は発表会を行った。その結果、地域への愛着形成を育むことができた。 ＜課題＞学習規律の徹底（話の聞き方、姿勢）、自ら進んで挨拶や返事をすること、体力向上に向けた運動量の確保、基礎学力の向上等		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞　・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・誰一人取り残さないための学力向上アクションプランに基づいた授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	①放課後補習教室の効果的な活用 ②「上二小学習の約束」を各学級・専科で徹底して実施 ③江戸川っ子スタディウィークの効果検証	・東京ベーシックドリル診断テストでの学校全体の平均正答率を70%以上とする。 ・学習規律アンケートにおける肯定的回答80%以上 ・各学期毎に行う江戸川っ子スタディーウィーク後の実施率9割以上	A	B	・放課後補習教室では、学期ごとに児童の理解度を確認してメンバーを入れ替えたりして効果的な活用ができた。 ・児童の学習規律について肯定的にとらえている教員が80%以上いたので、継続的に指導してきた成果である。 ・江戸川っ子スタディウィークについては、積極的に取り組んだ児童を表彰状を渡して、意欲的に基礎学力の定着に向けた取組ができた。	B	・学習効果を上げるための取組は評価できるが、学習習慣が身に付いていない児童も多い等指摘されているので、施策が必要である。 ・学校だけでなく、各家庭の復習の継続等、一体となった取組があるとよい。 ・学力向上の取組を継続して取り組んでもらいたい。	・学習習慣が身に付けられるように家庭と連携して取り組むとともに、学校から積極的に情報発信をしていく。 ・江戸川区算数授業ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄを活用し、「算数の授業が楽しい、わかる」という授業を全教員が実施する。 ・四則計算の基礎基本の徹底等、放課後補習教室の指導者と相談しながら進めていく。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・読書科と総合的な学習の時間・生活科等との連携強化 ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	①江戸川区の読書科指導の工夫・改善に向けた研修会に参加 ②学校図書館利用の充実（低・月３日、高・月２回以上の活用）及び実施した際の週案への記入 ③学校司書を活用した読書活動を学期に3回以上実施（学校図書館での読み聞かせや学習支援等） ④読書科の授業で探求的な学習を学期に1回以上	・江戸川区の読書科指導の工夫・改善に向けた研修会の校内伝達研修を年2回以上実施 ・学校図書館利用率を100%とする。 ・学校司書を活用した読書活動を学期3回以上100%実施する。 ・児童アンケートでの「読書科を通して探求的な学習が楽しいですか。」に対する肯定的な回答を70%	A	B	・読書科の研修を年3回受け、伝達研修した。 ・学校司書を活用した読書活動や保護者による朝読書が月1回以上実施できた。 ・児童が読書離れにならないように、学校図書館を積極的に活用したり、図書館見学に行ったりした。 ・読書科と総合的な学習の時間等を連動させて探究的な学びに意欲的な児童を育むことができた。	B	・朝の読み聞かせは、保護者や地域の方々の協力が見られてよい取組である。 ・一人一台端末があり、その活用が積極的に進められている中で、読書科を進めるのは大変でないか。 ・授業とジョイントした利用、朗読大会を行ってもよい。	・時間を確保して読み聞かせや読書活動を充実させる。 ・小岩図書館の司書との連携については、読書科、総合的な学習の時間や生活科などの探究的な学習等においても積極的に活用していく。 ・次年度も児童の学習実態・教科書の指導内容に準じた図書を選定し、さらに蔵書の充実を図っていく。
	＜新しい教育の充実と推進＞ ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現	①ICT活用に向けた教職員研修会の実施 ②各教科の予習復習、調べ学習でのミライシードの積極的活用	・毎月１回以上のICT活用研修会の実施、ICTに関する児童アンケートでの「ICTを活用した授業は分かりやすいですか。」に対する肯定的回答80%以上とする。	B	B	・ICT活用に向けた教職員研修会を計画的に実施したり、指導法について必要に応じて支援員に相談したりできた。 ・ミライシードの活用を今後も積極的にしていく。	B	・ICTを活用した授業をさらに進めてほしい。 ・一人一台端末での学習のみに制限する。 ・保護者の有識者の活用があるとよい。	・一人一台端末を活用した対話的な深い学びをしながら、わかりやすい授業を工夫していく。 ・家庭や上二SNSルールを徹底していく。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・健康、体力の向上に向けた外遊びの励行及び運動遊び	①体育実技研修会を実施 ②主体的な活動を促すため、休み時間を活用した運動遊びの充実	・体育実技研修会を年3回以上実施する。 ・「体を動かすのが楽しい」と感じる児童の肯定的な回答 85%以上	A	A	・体育実技研修会はもとより、行事に合わせ学校長自ら、具体的指導を全校朝会等で児童向けに実施し、各教員とも共有でき学校全体で指導ができた。 ・休み時間に体を動かす時間を十分に確保するようにしていく。	A	・体力向上に向けた取組を継続してほしい。 ・体力の向上は学力の向上につながるので、力を入れてほしい。 ・休み時間や体育の授業等で楽しそうに体を動かしている姿が見られる。 ・校庭を有効的に活用方法を考えるとよい。	・「体を動かすのが楽しい」と感じることのできる授業改善を引き続き行っていく。 ・中休みを30分確保して、遊びや活動の時間を十分に確保して体力を向上させる。
	＜わくわくタイムの充実＞ ・体力テスト結果における分析、活用の充実	①年間35回以上のわくわくタイムの実施 ②体力テスト結果での課題のある動き（投げる動き、持久力等）の指導の工夫	・体力テストにおける結果を全種目において東京都の平均以上にする。	A	B	・体力テストの結果から、課題のある動きを指導した。 ・わくわくタイムを楽しみにしている児童が増えた。	B	・全学年が体力テストにおいて平均以上になるように指導を継続してほしい。 ・高学年のモチベーション維持をする。	・わくわくタイム、体育の授業等の始まるまでの間にできる短時間で行える運動を習慣化させる。 ・なわとびの取組を充実させて体力も向上させている
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	①「上二小ユニバーサルデザインのポイント」に基づいた各学期1回以上の定期的な環境改善の実施 ②体育実技研修会を実施 ③お便り等の交流を通して外部機関との連携を図る。	・特別支援教育の視点を取り入れた授業自己チェックリストにおいて90%以上が良好な状態とする。 ・「巡回指導員、心理士等の助言を学級経営に生かせている」が8割以上にする。 ・月１回のお便りを校内に掲示する。	A	B	・ユニバーサルデザインのポイントに基づいた環境改善をした。 ・巡回指導教員や巡回心理士等による学級や授業観察を70%の学級が実施をし、具体的な指導を受け学級経営に生かすことができた。 ・スクールカウンセラー等からのお便りを月一回配布したり、副籍交流のお便りを校内に掲示したりでき	B	・巡回指導教員や巡回心理士等による学級や授業観察を70%を80%に上げることを期待する。 ・特別支援教育の指導を必要としている児童の現状についてもっと具体的に教えてほしい。	・教室環境や児童とのかかわり方についてさらなる改善を目指すために、研修会や校内支援委員会等を実施する。 ・巡回指導教員、巡回心理士等と情報共有を密にして児童理解をさらに深める。
	＜オリンピックレガシーを生かした教育＞ ・ボランティア精神の育成 ・日本伝統文化の理解	①学年を超えた運動遊び・集団遊びの実施 ②日本伝統文化に親しみ、理解を深める。	・縦わり班遊びを年間6回実施する。 ・関係する学校評価85%以上	A	A	・学年を超えた運動遊び・集団遊びとして、縦割り遊びを計画的に実施し、学習発表会や狂言教室で日本文化に触れ合うことができた。	A	・日本の伝統文化等、わかりやすい取組項目にするとよい。 ・継続して取り組んでほしい。	・学年を超えた運動遊び・集団遊びを通して、学年末には6年生から5年生に引き継げるようにする。 ・日本の伝統文化に触れ合う機会を作る。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用	①不登校児や家庭に課題のある児童に対し、SSWやSCとの連携を図るとともに、学年を超えた運動遊び・集団遊びの実施 ②スクールカウンセラー等との教育相談を実施する。	・月１回以上SSWとの連絡会を開催し、学校での児童のを共有する。 ・教職員アンケートで、90%以上が「情報を共有し、組織的に対応できた」と回答する。	B	B	・不登校傾向や家庭に課題のある児童に対し定期的に、生活タ会などでも、情報交換できていた。 ・SSWと連携をはかり、家庭や児童への支援につなげることができた。	B	・不登校と家庭の問題は切り離せない関係の中で、どこまで入り込んで関わるかが難しい。 ・今後も家庭との連携は重要である。改善に向けた努力を継続してほしい。 ・機会があれば学校評議員とのカンファレンスを希望する。	・来年度はネットモラル教育を前期（4月）、後期（10月）で1回ずつ実施し、児童の意識を高める ・巡回指導教員、巡回心理士等の助言を受けるとともに、SCやSSWとの連携を図りながら、家庭や児童への支援をする。
	＜いじめの未然防止＞ ・いじめの未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実	①各学期1回、いじめアンケートを実施し、児童指導やいじめ防止に活用し、未然防止や早期発見に役立てる。	・「ふれあい月間」で「思いやり」「友情」について年3回道徳の授業を実施し、いじめは許されないことだという意識を高める。	A	A	・児童指導やいじめ防止にむかって生活指導タ会など定期的にだけではなく、臨時にも、未然防止や早期発見に役立てようと情報を共有できた。	A	・いじめは、あることを前提に取組を継続してほしい。 ・子どもたちが未来に向かって健やかに育っていくこいの予防ができるよう用いている	・各学期に行っているいじめ防止の授業について、学校全体で共有する機会を設ける。
地域に広く開かれた学校（園）の実現	＜自校の取組の積極的な発信＞ ・学校ホームページ等の充実 ・学校公開の実施・充実	①学校ホームページ・tetoruで情報発信をすることによって学校での様子や情報を周知する。 ②学校公開や学習発表会で児童の成長の様子を公開する。	・毎日ホームページを更新し、月1回以上学校だよりや学年だよりで伝える。 ・年間5日の学校公開や運動会・学習発表会を実施する。	A	A	・学校ホームページ・tetoruで情報発信をすることによって学校での様子や変更の情報も周知できた。 ・学校公開では、公開の内容や実施方法を工夫することで多くの保護者の参観があり、平素の学校や児童の様子を見ていただくことができた。	A	・開かれた学校を目指してほしい。 ・地域の学校のホームページをよく見ている。 ・ホームページの更新を楽しみにしている。 ・学校公開等で積極的に情報発信をしている。	・来年度は運動会や上二芸術祭を計画し、年4回の学校公開を予定して地域に開かれた学校となるように実施していく。 ・PTAのホームページの充実していく。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①学校評議員会を年3回実施し、学校の教育活動の情報発信及び地域の方々の思いや考えの共有化を図る。	・学校関係者評価における中間評価及び最終評価時における肯定的回答が90%以上とする。	A	B	・学校の教育活動の情報発信及び地域の方々と定期的に実施できていた。 ・運動会や学習発表会、学校公開等の行事で学校評議員、地域の方々に参観していただく機会が増え、よりよい教育活動につなげていく。	A	・コロナ禍以前の頃のような地域とのかかわりをできる範囲で行っていく。 ・学校に足を運ぶ機会が増えてうれしい。 ・学校評議員会では、十分な情報交換ができている。 ・少しでも学校の評価があがるように協力したい。 ・教員とのかかわりを密にしていく。	・日々の情報共有により様々な事案への早期対応ができているので、今後も継続していく。
	＜関係機関との関係強化＞ ・学校応援団・すくすくスクールとの連携の充実	①定期的なPTA役員会及び全体会の実施及び情報共有の場の設置 ②PTA・すくすくスクールとの情報共有の場の設定	・PTAからの情報発信を毎回tetoruで実施する。 ・PTA各委員会・すくすくスクールとの情報共有の場の設置を90%以上とする。	A	A	・PTAからの情報発信を毎回tetoruで配信ができた。 ・PTAやすくすくスクールとの情報共有を密にし、共通理解を図ることができた。	A	・地域と連携を強化し、より社会教育に力を入れるとよい。 ・地域で子供を育てる意識が高まるとよい。	・今後ともPTAやすくすくスクールとの連携を図りながら、児童への指導をしていく。
特色ある教育の展開	＜地域の資源や人材を生かした学習＞ ・地域資源を活用して自ら課題を見いだし、課題解決に向けてやり通すことのできる児童の育成	①地域の資源を活かした授業づくりと人材活用マップの作成	・校内研究で年間4回の授業・協議会を開く。 ・各学年で地域資源を活用した授業を2回以上行う。	A	B	・昨年度の研究をもとに、今年度は児童の実態に合わせて地域の資源を活かした授業づくりと人材活用行ってきた。 ・体育外部講師を招いて児童に直接指導をすることによって、意欲的に取組む児童が増えてきた。	B	・人材活用マップは地域に限定することなく、幅広く選定するとよい。 ・地域の方からの講話もあってよい。	・昨年度、今年度の研究の成果をもとに、地域資源を活用した授業づくりで児童の地域への愛着形成の強化を更に図っていく。
	＜学校における働き方改革プラン＞ 実効性のある働き方改革の実施	①校務分掌精査及び作業効率を上げるための仕事の見直しによるライフワークバランスの向上	・月１回の定時退勤日の設定、超過勤務時間制限月45時間以内	A	B	・校務分掌の仕事の見直しによる働き方改革についての管理職からの声かけもあり、年度当初に比べて超過勤務時間が大幅に減ってきている。 ・さらに年休取得率を上げることによってライフバランスの向上を図りたい。	A	・超過勤務時間が大幅に短縮されたことは評価できる。 ・今後とも仕事の効率化を図る努力をしてほしい。 ・メンタルヘルスに十分気を付けて従事してください。	・定時退勤日を設け、月１回以上17時までに100%退勤できるようにする。そのために、計画的な仕事の進め方や、優先順位の付け方などを共有する。